

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

本場所を移動しました

お探しの資料をさらに見つけやすく、使いやすくするために、2階オレンジゾーンと3階グリーンゾーンの書架の移動を行いました。今月は、哲学・歴史・地理・自然科学・医学・テクノロジー・工学・生活・産業・商業などに関する資料のほか、新書・文庫コーナー、デジタル関連資料の本が置いてあるグリーンゾーンをご紹介します。

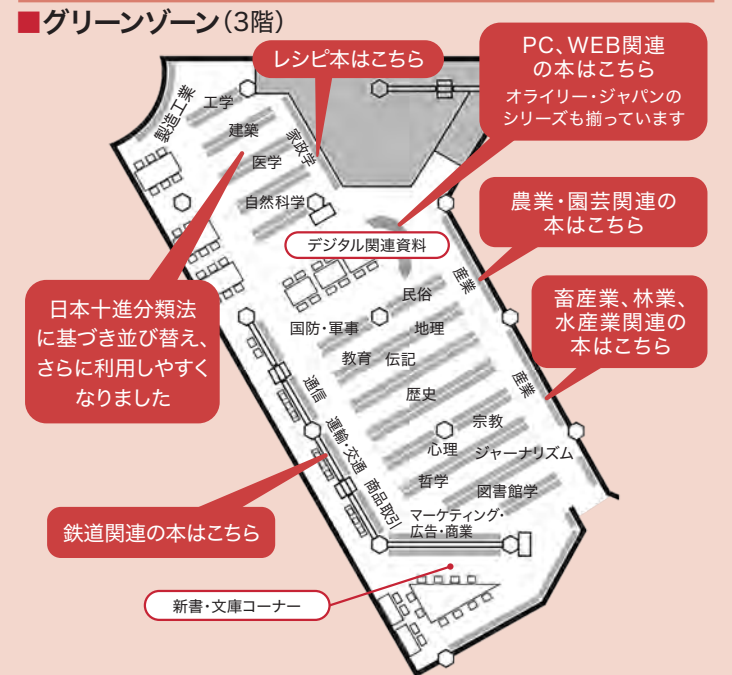


Exhibit Information 6月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

- 2F パープルゾーン** 「大正モダン」(~9/14) **NEW!**  
短い時代区分ながらその中で様々な文化が開いた大正時代。当時の華やかな着物やポスター、広告などデザインについての本から、文学、社会情勢に関する本まで集めました。
- 2F パープルゾーン 三角台** 1階特別展「大正モダナーズ 大正イマジユリと東京モダンデザイン」関連展示 (~8/7) **NEW!**  
6月8日から始まる特別展にあわせて、大正時代の斬新で人目を惹くモダンなデザインについて紹介するとともに、千代田区と東京ステーションギャラリーが共催する『夢二繚乱』展についてお知らせします。
- 3F グリーンゾーン** 「変わる」(~6/15)  
「変わる」をキーワードに、動植物が生きていくために行う擬態・変態から、装うことで変化する心、そして変わらず守っていかねばいけないものまで、さまざまな視点で変化をとらえる展示です。

展示 PICK UP

■3Fブルーゾーン【アート・言語・文学】の本を集めたゾーン



美術館の夜間開館など、夕方以降の活動の選択肢が広がっている今、夜の時間帯を有効に活用できていますか?この展示では、小説・絵本・写真集など夜がテーマの作品、夜遅くまで開いている施設、家の中での過ごし方などを紹介します。また、ブルーゾーンおすすめの詩集の中から夜に関連する一文を抜き出し、パネルにして展示しています。

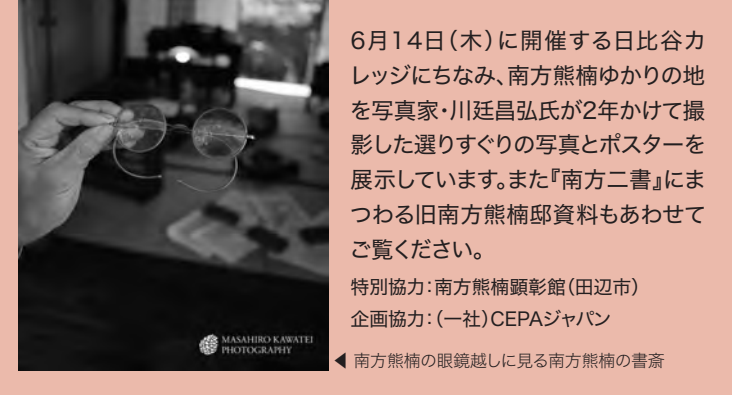


■1F・3Fホール

[日比谷カレッジ関連展示]

ジャパニーズ・エコロジー 南方熊楠 ~6/17(日)

ゆかりの地を歩く 写真展・ポスター展



From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのお知らせ】

未知へ誘うヴィジュアルの世界 ~ここはどこ?これは誰?これって何?~

世界中の誰が見ても楽しめるヴィジュアルの世界を英語教育に取り入れたナショナルジオグラフィックラーニングの教材から、「自然」「人びと」「謎の情景」を伝える18点のイメージを紹介します。圧倒的な美しさ、ひと目では何かわからない不思議、ヴィジュアルの背後に隠された物語など、自由な想像をめぐらせながら楽しめます。また、それぞれのテーマに関するヴィジュアルな書籍もあわせて展示しています。

- 会期：開催中~7月21日(土)
- 場所：千代田区立千代田図書館9階 展示ウォール
- 休館日：5月27日(日)、6月24日(日)



千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

【特別展】

大正モダナーズ 大正イマジユリと東京モダンデザイン

大正~昭和初期にかけて、マスメディアの発達や印刷技術の革新により、書籍、雑誌、パンフレット、絵はがき、広告など、「大正イマジユリ」と呼ばれる大衆的な複製印刷物が数多く生み出され、竹久夢二や小村雪岱など、多くの人気画家たちが小説や雑誌の挿絵、書籍の装幀を手がけました。いまなお清新な輝きを放つ大正~昭和初期にかけての様々なグラフィック・デザインを紹介します。

本展は、千代田区主催で東京ステーションギャラリーにて開催中の「夢二繚乱」(2018年5月19日~7月1日)と連動して開催されます。

■展示構成 ※展示構成は一部変更する場合があります。

第1章 大正のデザイン  
一杉浦非水と大正の商業図案

第2章 東京大正パブリケーション  
一美術家たちの挑戦

第3章 子供ワールドと華と女性  
一カワイイの原点

第4章 新時代のジャポニスム  
一小村雪岱と浮世絵イマジユリの世界

第5章 ポップ・カルチャーの洗練  
一映画、演劇、舞踊、音楽のパフレットデザイン

第6章 銀座・東京モダニズム  
一大正のファッション&ライフスタイル



6/8金・8/7火

- ※休館日 6月18日(月)、7月16日(月・祝)
- 開室時間：平日 10:00~20:00  
土曜 10:00~19:00  
日祝 10:00~17:00  
(入室は開室の30分前まで)
- 会場：千代田区立日比谷図書文化館 1階特別展示室
- 観覧料：一般 300円  
大学・高校生 200円
- 千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方1名は無料 ※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。
- 主催：千代田区立日比谷図書文化館
- 監修：山田俊幸
- 協力：大正イマジユリ学会
- 企画協力：キュレーターズ



左)竹久夢二「少女の友 4月号」第20巻第4号 1927(昭和2)年  
右)小林かいち「二重街の女」1925(大正14)~1926(大正15)年頃

関連イベント

1 講演会 申込受付中

大正のモダンデザインと竹久夢二

- 日時：7月17日(日) 14:00~15:30 (13:30開場)
- 場所：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 講師：富田 章(東京ステーションギャラリー一館長)
- 定員：180名(事前申込順、定員になり次第締切)
- 参加費：500円

上記①②のお申込み方法：ホームページの申込みフォーム、電話(03-3502-3340)、来館(1階受付)のいずれかにて①講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。

2 ワークショップ 6月8日(金)より申込受付開始

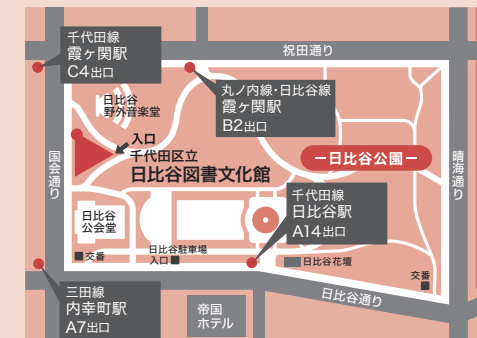
かわいい紙を貼って、レターボックスをつくる!

- 日時：7月18日(水) 14:00~15:30 (13:30開場)
- 場所：日比谷図書文化館 4階 スタジオプラス(小ホール)
- 講師：大西景子(BOX&NEEDLE代表)
- 定員：30名(事前申込順、定員になり次第締切)
- 参加費：1500円(材料費込み)

※参加に際しては、はさみ、鉛筆をお持ちください。

calendar 開館時間：平日10時~22時 ■土曜10時~19時 ■日祝10時~17時 ■休館日

2018年6月							2018年7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
24	25	26	27	28	29	30	29	30	30				



- access
- 都営地下鉄)
    - 三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
  - 東京メトロ)
    - 丸の内線「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分
    - 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分
    - JR「新橋駅」徒歩10分
- ※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

# 6・7月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

## 6/5 (火) 古書で紐解く近現代史セミナー 第30回 延遼館と明治初年の外交儀礼

講師：西木 浩一(東京都公文書館統括課長代理(史料編さん担当))

1869(明治2)年から1889(明治22)年まで外国要人の宿泊や接遇の場として使用された延遼館の概要と、そこで行われた外交儀礼として、1869年の英王子エジンバラ公と1879年のグラント元米大統領来日時について比較し、この10年間で外交の成熟ぶりをお話します。

- 日時:6月5日(火)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■参加費:1000円(千代田区民・学生500円)

※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。



延遼館の庭を散歩するグラント将軍(右)とヤング(『Around the World with General GRANT vol. II』/ John Russel Young 著/1879年)

## 6/6 (水)他 江戸歴史講座 第51・52回 江戸の居酒屋文化(全2回)

講師：飯野 亮一(食文化史研究家)

18世紀中ごろになると江戸の町には、居酒屋が生まれ、賑わいを見せるようになりますが、店構えや客層は今とは違っていました。第1回では江戸の居酒屋の誕生の経緯をさぐり、賑わいを見せる店構え、客層、酒飲み風景、飲み方などを紹介します。第2回では「呑みだおれの町」といわれた江戸で江戸っ子たちはどの位、どのように酒を呑んでいたか、居酒屋でどんな肴が出されていたかなどについて紹介します。

- 日時:6月6日(水)19:00~20:30(18:30開場)
- 第1回「江戸の居酒屋の生い立ちと賑わい」
- 6月20日(水)19:00~20:30(18:30開場)
- 第2回「江戸っ子が呑んでいた酒と肴」
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:各回200名 ■参加費:各回1000円(千代田区民 各回500円)



## 6/7 (木) 江戸歴史講座 第53回 伊能忠敬 人と業績

講師：星埜 由尚(公益社団法人東京地学協会副会長)

伊能忠敬は、わが国で初めて実測による日本地図を作成した人物です。下総佐原の豪商であった忠敬は、55歳の時から足掛け17年をかけ、全国の測量を行いました。今年は、1818年に忠敬が亡くなってから200年を迎えますが、忠敬の人物像とその業績を振り返り、その偉業の原動力を考えます。

- 日時:6月7日(木)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員:200名
- 参加費:1000円(千代田区民500円)



富岡八幡宮の伊能忠敬像

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

## 6/14 (木) ジャパニーズ・エコロジー 南方熊楠ゆかりの地を歩く

講師：田村 義也(南方熊楠顕彰会学術部長)、大竹 哲夫(み熊野ねっと) 水野 雅弘(TREE代表取締役・CEPAジャパン) 川廷 昌弘(日本写真家協会・CEPAジャパン)

150年前に生まれた南方熊楠は、明治の時代に海外遊学し、博物学、生物学、民俗学の智の巨人となりました。柳田國男により編まれた『南方二書』を紐解きながら、熊楠が私たちに残してくれたメッセージと、世界遺産や国の名勝地にもなったゆかりの地を紹介します。(特別協力:南方熊楠顕彰館(田辺市)、企画協力:一般社団法人CEPAジャパン)

- 日時:6月14日(木)19:00~21:00(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員:200名 ■参加費:1000円



南方熊楠顕彰館(田辺市)所蔵

## 6/29 (金) 上廣・日比谷ライブラリー・レクチャー シリーズ「私の修業時代」 私の修業時代、偉人たちの修業時代

講師：門井 慶喜(作家)

幕末、明治はいろいろな偉人があらわれたが、彼らにも下積み時期があった。というより、変革期には単なる「生まれ育ち」で世に出た人はひとりもない。いろいろなエピソードを織り込みつつ、私自身の経験もまじえて、いわゆる「芽が出る」ということの普遍的な原理のようなものを考えたい。(主催:公益財団法人上廣倫理財団、共催:日比谷図書文化館)

- 日時:6月29日(金)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:500円(千代田区民・学生無料)



撮影/ホンゴユウジ

## 7/1 (日) 児童文芸誌「赤い鳥」創刊100年 黎明期の童謡・童話・童画の世界

- 歌:青山恵子(メゾ・ソプラノ歌手)、真幸 操(ソプラノ歌手)
- アコーディオン:せきた さらい(アコーディオン奏者)
- 朗読:桜井 春江(声優)、おの まり(歌手・ミュージカル俳優)
- 紙芝居:NPO法人はばたけ千早 語り部部会
- 司会:小野 清子(音楽の泉プロジェクト代表)

今から百年前、夏目漱石門下の鈴木三重吉が子供達の為に芸術性豊かな作品をと創刊した児童文芸誌「赤い鳥」は、北原白秋や芥川龍之介ら当時一流の作家達の協力を得て全国に広がり、童謡、童話、童画が誕生しました。その代表的作品を朗読や紙芝居、歌とアコーディオンの演奏でお届けします。(主催:音楽の泉プロジェクト 共催:日比谷図書文化館)

- 日時:7月1日(日)14:00~16:00(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1500円



「赤い鳥」創刊号(大正7年7月1日)

## 7/4 (水) 池波正太郎の食卓

講師：重金 敦之(文芸ジャーナリスト)

小説の中に、池波正太郎ほど食べもののシーンを巧みに取り入れた作家はいません。ごくありふれた野菜や江戸前の魚介の描写は、読者の味覚を刺激します。私生活でも、食べることが大好きでした。朝日新聞の名編集者として、池波正太郎と接してきた重金敦之氏が、食べ物を通して池波ワールドの魅力・エピソードを語ります。

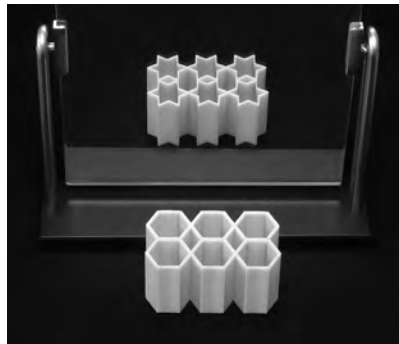
- 日時:7月4日(水)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名
- 参加費:1000円(千代田区民500円)



## 7/10 (火) だまし絵と錯覚 ～見ることの不思議を探る～

講師：杉原 厚吉(明治大学特任教授)

不可能立体のだまし絵を見ると、ありえないと感じるにもかかわらず立体感を持ってしまいます。この錯覚を絵や立体を通して体験しながら、理性と知覚の遊離がどこから来るのかを探ります。見たらものの形はわかるはずという素朴な常識の危うさを再認識する機会にしたいだけだと思います。



鏡に映すと姿が変わる変身立体

- 日時:7月10日(火)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■参加費:1000円

## 7/11 (水) これだけは知っておきたい インドネシア経済の歩みと現在

講師：加納 啓良(東京大学名誉教授)

世界第4の人口大国インドネシアは、21世紀に入ってから年率5%前後の安定経済成長を続けて「中進国」の仲間入りを果たし、その存在感を増している。各種産業、貿易、対日関係など項目別にその変化と現状をみたらうで、問題点と今後の展望について考えてみたい。

- 日時:7月11日(水)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■参加費:1000円



## 7/13 (金) 千代田区民講座 縄文道 ～日本人の源流が世界を救う～

講師：加藤 春一(一般社団法人出会い創造研究所 代表理事)

縄文時代は人間が誕生して初めて完成させた社会であり、人間社会の原点が見られます。「武士道」と共に日本人の精神性を表し、現代の日本を抱える諸問題を解決するためのヒントを、縄文人の生き方から得られるという仮説「縄文道」とは何かを解説します。(主催:NPO法人 神田雑学大学、共催:日比谷図書文化館)

- 日時:7月13日(金)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名
- 参加費:無料

※6月5日(火)から千代田区民受付開始。区民以外は6月12日(火)から受付開始。



## 7/13 (金) 柳宗悦と濱田庄司 一民藝を生きる二人のダイアローグ

講師：松井 健(東京大学名誉教授)

柳と濱田は民藝を主張して、それぞれにきわめて充実した人生を歩みましたが、その二つの軌跡は互いに共鳴する見事なダイアローグ(会話)をなしています。柳と濱田の事跡やエピソード、人生の風景に具体的にふれつつ、二人の人生の交錯をたどり、民藝の原義を考えてみることにしたいと思います。

- 日時:7月13日(金)19:00~20:30(18:30開場)
- 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円



## ◆古文書塾てらこや体験講座◆

「古文書塾てらこや」は古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学習を進めています。7月期の開講に合わせ、この度古文書の世界に無理なく入っていける「体験講座」をご用意いたしました。まずは体験講座をお試ください。

	講座名	曜日・時間	体験講座実施日
特別講座 90分	自分の花押(かおう)を持ってみませんか	(火)13:30~	6/26
	大久保利通の手紙を読む	(火)19:00~	6/26
	浮世絵を読む【紅色クラス】【藍色クラス】※合同開催	(水)10:30~	7/4
	商家文書を読みとくー三井の子弟教育	(水)19:00~	6/27
	くずし字で読み解く茶の湯の伝書	(木)13:30~	6/28
	江戸を楽しむ 一続・江戸の寺社あれこれ	(木)18:30~	6/28
	絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(入門編)	(土)10:30~	6/23

- 参加費:各回1,000円 ■定員:各講座23名(事前申込順)
- 会場:4階セミナールーム(会議室) ■資料請求・体験講座のお問合せ:電話(03-3502-3340) 日比谷図書文化館 古文書塾てらこや担当迄

## 特別研究室企画展示

# 若き日の明治天皇とグラント大統領 ー内田嘉吉文庫に見る日米交流の原点ー

6月30日(土)まで開催中



中島で天皇に謁見するグラント将軍(『Around the world with General Grant vol. II』/ John Russell Young 著 / 1879年)

## ポモージュ広報室より

大正時代は、約15年間という短い期間の中で西洋文化が日本独自のものとして花開いた時代でした。現在、私たちが当たり前だと思っている交通機関、電化製品、カフェ・レストラン、デパート、映画館などといった近代都市の象徴もこの頃に発達したものです。また、竹久夢二などが手掛けたグラフィックデザインがより身近になりました。千代田区内では5月~8月にかけて、東京ステーションギャラリー「夢二繚乱」(5月19日(土)~7月1日(日))、日比谷図書文化館「大正モダニズム」(6月8日(金)~8月7日(火))をそれぞれ開催します。今もなお斬新でどこか懐かしさを感じさせる大正ロマンの世界をお楽しみ下さい。